

瑞龍山太平興國南禪寺は東三条の北にあり、旧龜山法皇の皇居なりしを、開山大明國師に賜て五山之上の号

を蒙る。当山の記に曰、太上皇龜山院弘安年中に此地に離宮をいとなみ給ふ。正応のはじめ宮中にあやしき事おこりて、

嬪妃大になやみあへり。陰陽頭にこれを卜巫しむるに、故最勝光院僧正道智むかし此地に棲、世に駒の僧正と称す、

其靈のこりて当山を秘惜して障碍をなすといへり。故に顯密の諸師咒術巫祝に及ぶまで百計手を拱く、同四年東福の釈

普門〔当寺の開山なり、無関和尚といふ、謚大明國師〕勅命を請て、二十の禅侶を率て宮中に安居し、只何となく衲子

をとりて坐禅しけるに、物怪跡を匿し上下安寝す、上皇叡感のあまり普門を礼して伽梨鉢多をうけ給ふ、又宮をあら

ためて寺となし、〔上皇は上の宮に安居し給ひ、下の宮を寺となし給ふ、今の龍淵室是なり。上檀の鳴瀧の画は古法眼

元信なり、水呑の虎は探幽にして世に名高し〕遂に命あつて仏殿を創建し給ふ。本尊は釈迦仏の坐像、脇士は文珠普賢

なり、又金剛力士の二体を安置す。〔此力士の靈像は回祿のとき飛いで、石上にありしとなり〕南の壇上には龜山太上

皇の神牌を崇め奉る、傍には達磨百丈臨濟の像を安置す。〔仏殿に曇華堂といふ豎額あり〕山門は五鳳楼と号して、寛

永年中藤堂高虎の再建なり。〔薩摩杉を多く用ひて是を造る〕唐木の白檀二株山門の内にあり。石の大燈籠一基山門の

外にあり、高式丈余、石は白川の産にして希代の大燈籠なり、蓋石の宝形に二ツ引龍の紋あり、又地輪の上に文字あり。

〔南禪寺山門石燈籠寛永五年九月十五日佐久間大膳亮平勝之寄進之為現当悉地成満也〕綾戸明神は拳龍池の乾にあり、

是当山の鎮守なり。〔むかし行宮の通衢に綾戸小路といふあり、是に住せる帝の牛飼の舍人死して靈あり、土人これを

祭て小祠を建る。応永年中に伯英俊和尚大祠を造りて山門の境致となせしとぞ。南禅院には龜山法皇の宸影を安置す。

金地院には御宮ありて白砂に鳳凰竹を植る、樓門左右には隨身の像を置、当院の開祖は大業和尚五山僧祿司の号を蒙る。

駒が瀧は東の峯独秀峯にあり、大僧正道智常に此瀑布を愛す、滅後に靈をまつりて当寺の護法神とし、社を瀧の側に建

てこれを神仙佳境といふ。〔道智は光明峯寺入道撰政道家卿の息なり、三井の長吏禅林寺にして又狛の僧正ともいふ〕

蔵春 峽壑雷橋といふは瀧の辺にあり、羊角嶺は天授院の東の峰をいふなり。